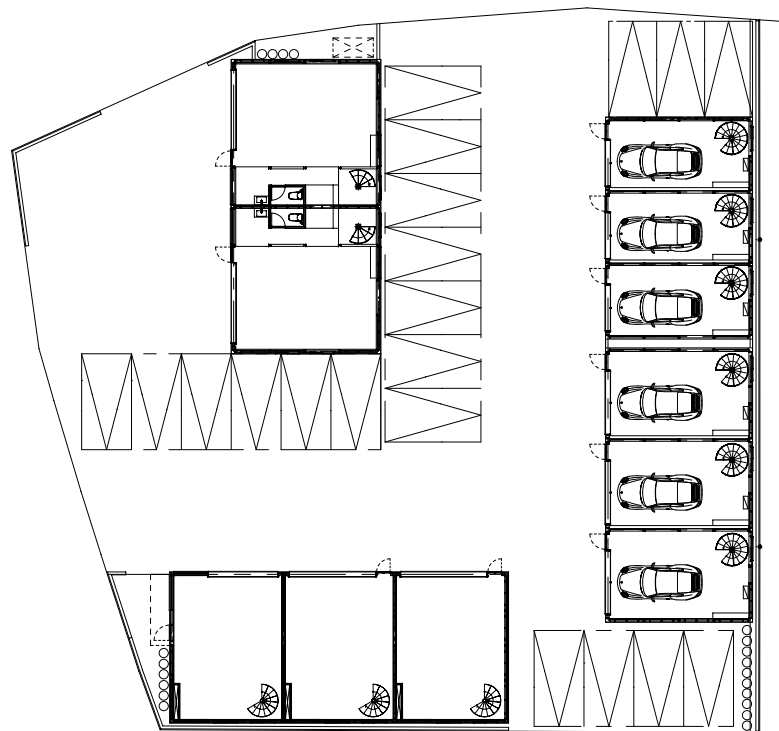




FLOOR PLAN

ARK BASE HAKATAが建設されるのは、福岡空港からクルマで5分の金の隈。ディーラーやバイクショップが軒連なる福岡きってのモーター&ガレージ文化と親和性の高いエリアで、高低差のある計画地に、階高を調整しながら3棟の建物を配置。その関係する空間の演出を考えることが設計的なテーマとなっています。この金の隈は元々賃貸住宅には向いていない場所。しかしクルマ好きから各種店舗まで多様なニーズに対応するガレージアパートGLBなら、このような立地でも有効活用することが可能なのです。

先日TVでサスペンスドラマの再放送を見ていたら、長崎の『ハウステンボス』が舞台として出てきました。これは、まるでオランダ。日本じゃないような風景を見事に作り出していました。とはいえ、一種異様な違和感を覚えたのも事実。なぜならそれは、あくまでも表面上のデザインだけを真似しているものだからです。しかし、この表面上だけをなぞる考え方にも変化が見え始めています。

今回は福岡を中心にコンセプトualな物件を手掛けるティエヌ企画株式会社 (IURA group) さんからご命を頂いた新プロジェクト。デイトナハウスのLGSシステムを使って様々なボリュームの“シンプルな器”を構成。そこに想像力を掻き

立てられたユーザーの多様な使い方が内包されることで建物群は完成し、そして結果的にそれが本場の“リアル”な表情を集積する――。

つまりそれが、表面上のデザインだけではなく、骨格を大事とするデイトナハウスが掲げる“スケルトン主義”です。このスケルトン主義とは、あくまでも骨格そのものの本質で空間を構成するというアプローチ。そのうえで、現実で使用しているリアルな道具やギア類を室内の“必要分”としてそのままレイアウトしていく。借り物の虚飾的な要素は一切必要なく、リアルな“現代ニッポン人”としての自分のセンスと感覚で、いつまでも愛着や居心地の持続する室内を演出するという考え方です。

今回の計画では、3つの賃貸形式のバリエーションを準備しています。1つは従来のGLB形式。事業収支的にも使い勝手的にも最もバランスの取れた最大公約数の大きい間取りです。2つ目は、1Fの階高を非常に高くした2F建て。整備工場やカフェなど、幅広いニーズに対応しながら鉄骨空間の潔さをそのまま店舗の印象に転化する意図で、施設全体の“顔”の位置に設定しています。そして3つ目のタイプは、間口を拡張して2台駐車可能にしたフルスイングのガレージ賃貸で、SOHOあるいは店舗としても十分な許容力をもつ3層スケルトン形式です。オーソドックスなガレージ賃貸が、店舗系や天井高さ重視など、カラダのカタチをいろんな形式に変容してニーズの細分化に対応する。これぞGLBのメタモルフォーゼ。

福岡の新たな拠点『ARK BASE HAKATA』は、福岡空港からクルマで5分、周辺には様々な車種に様々な切り口で携わる工場や職人が軒を並べる町、『金の隈』に来年夏前竣工予定。間もなく賃貸募集も開始します。続報に乞うご期待！

What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウス×LDKの建築システムを構成するのが軽量鉄骨のLGSパネル。厚さ3mm～4mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅182cm、縦270cmの長方形に溶接して製作。デイトナハウスは、この基本の形を連結することで、住宅やガレージのみならず、別荘、店舗、賃貸住宅などの様々な建築を作っていく、全く新しい建築のカタチとなっています。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感と、力の伝達を受け持つ「ブレース」が織りなす、インダストリアルで飽きの来ない空間のテストも持ち味となっています。

www.daytona-house.com

LDK inc. 代表 玉田敦士

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

博多に誕生するアーリーモダン複合施設
GLBのメタモルフォーゼ3様態

自分のライフスタイルは、自分で構築する!! そのための鉄骨スケルトン賃貸住居。それがGLBのコンセプトですが、この度ついにそのコンセプトをフルスイングで表現した3様態のGLBが博多に誕生します。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ

DH×L
DAYTONA HOUSE×LDK



鉄骨フレームが醸し出すアーリーモダンな印象が、むしろ新しいタイプの複合施設を想起させる外観。まるで実際に“商業スペースとして稼働するバウハウス”という趣。時代超越的なイメージが新鮮なのです。鉄骨露出や天井の鉄骨梁の羅列を仰ぎ見るイメージは、一般のインダストリアル系を遥かに越えた独特の存在感。3棟の建物が紡ぎ出す空間の奥行きが、一層タイムスリップ感を助長します。





Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA

TOPICS 03

軽井沢の森の中にふわりと浮かぶ
高床式リゾートハウス・パート2



起伏の激しい旧軽井沢の湿地帯で高床式リゾートハウスが進行中です。今回の敷地は、土地のアンジュレーションがやや激しく、高低差が大きいのが特徴。そのため森の中でのデッキ上の浮遊感は素晴らしいもので、視線の高度としては、ツリーハウスのレベルです。まさに樹上生活者。現場をやりながらも、地面をコンクリートで固めない、高床式の建築のすばらしさを実感します。人間の都合で好きなように自然を改変してしまうのではなく、適度な割合で人為と自然が“折り合い”をつける。その象徴的な礼儀作法が“高床式”だと思っています。

TOPICS 04

岩手県の“みちのくGLB”も
ようやく完成しました!!

東北は岩手県北上市でもGLBが竣工いたしました。北上には東北新幹線の駅もあります。地方においては、特にこのように新幹線の駅に近いエリアで、出張の多い人向けのGLBを建築する形式が一つのパターンとして確立しつつあります。普段は必ずしも便利な場所

に住まいを構えていなくとも、新幹線や空港の近辺のGLBを出先機関として活動する。一方で趣味のギア類や道具類の格納庫としても、GLBは有効に機能します。仕事と遊びの前線基地として、地方主要駅最寄りの場所のGLBとして、北上のGLBは絶好の例なのです。



NEWS

近鉄×デイトナハウスの近未来型コラボ
高架下ガレージ賃貸プロジェクト遂に始動!!



専用WEBサイト
詳しくはこちらから



かねてからSNS等でお知らせしておりました、近鉄高架下のGLB企画がいよいよ始動し、着工いたしました。来年3月末の竣工を目指して全力で進行中です。現在現場では基礎工事。工場では鉄骨フレームの製作中です。この計画における最大の難

所は、高架で頭が抑えられている状況での鉄骨建て込み工事です。とはいえ百戦錬磨の職人は今からいろいろ工夫に余念がありません。一方で高架下だけに、雨が降っても工事が可能。全天候型の利点もあります。高架下といっても、そこにはむしろ

近未来型の新しいライフスタイルが存在します。そもそもシームレスな線路を走る車両ですので、線路を走ることには“ガタゴト”とリズムを刻んでいたかつての高架下とはイメージが異なります。また高架のコンクリートの耐震設計強度も阪神淡路大震災を経て、格段



高架下にはまり込む艶消しブラック鉄骨のハードボイルドな空間。スチールサッシのアーリーモダンなイメージと高架のコンクリートの無骨感が共鳴して、唯一無二のスタイルを誕生させます。※内観CGはイメージです。

に強化されています。電車の利便性、クルマ、バイクのフットワーク。この双方を状況に応じて自由自在に使い分けることができる高架下ガレージ住居は、21世紀型の多様なライフスタイルに相応しい物件なのです。

またGLBは専用のアタッチメントを使って、オフィス、アトリエ、作業場、スタジオの様な空間に変身できるのも強みです。あたかも松田優作が探偵事務所を構えそうな、ハードボイルドなイメージ。他にはない存在感です。

全国で続々と建築中のデイトナハウス秋の陣

抜けるようなニッポン晴れと目の覚めるような紅葉をバックに
デイトナハウスの新規物件が続々と全国に増殖中です。

TOPICS 01

一つの身体で三つの顔！
キングギドラ型ファサードの
SOHOビルが仙台に出現!!



三つの顔＝ファサードが、それぞれ存在を主張しつつ、一つの大きな塊として認識される。変形敷地のデメリットをむしろ大きな特徴(メリット)に変化させて、永い間の印象＝深い記憶を獲得していく。商業系の建築の理想を言葉にすると、この“深い記憶”との関係は外せないのです。



建物を街路に対して印象的に目立たせたい!! 商業系のビルであればそのような“看板建築”としての位置付けも戦前からありました。従来からの意匠デザインの常識では、多分明るい壁の色を基調にする。それはイマイチ判然としない“安パイ”を狙ったもの。これといって好みははっきりしてないが、ありがちなデザインや、「悪く思われにくい」ことを最優先に考えたものです。一方で、双方向で人が繋がるSNS時代のデザインは、好みの傾向や個性を、より強烈に打ち出して、見る人の“深い記憶”の領域に突き刺さるようなデザインがむしろ主流。しかし、ありきたりに“派手に目立つ”ということではなく、逆説的にハードでシンプルなイメージを強調する傾向が好まれるようになってきました。表層の“記号性”ではなく、素材の“機能”や“本質”へ。そのようなデザイン傾向を俗に「インダストリアル系」と呼んでいます。デイトナハウスのデザイン趣向は明らかにインダストリアル系。キングギドラのよ



TOPICS 02

ハケ岳が望める“縄文GLB”
快調に進行中です!

長野県茅野市で建築中の、いわゆる“縄文GLB”も鉄骨建て方を無事完了。その他工事の段階に差し掛かりつつあり、来春の竣工を目指して快調に進行中です。この物件はデイトナハウス初のリゾート型GLBとしてチャレンジする意味合いもあり、経過に普段よりも関心を払っている物件です。想定する住まい手の賃貸募集は東京などの都市圏で、二拠点先の居住地としてこの長野の物件を使う設定。一般的な居住用の土地活用案件とは違って、まさにテレワーク時代の新しい需要を見込んでの企画なのです。茅野に滞在中もテレワークで仕事が続けられる、デュアルライフ可能

な方からすでに多く申し込みをいただいています。愛着の深い移動手段(クルマ・バイク)を配備しながら、趣味のギア類も十分に格納ができて、しかも鉄骨の素材感を思う存分堪能可能。そして板状断熱材の性能も高く、居住性もよい。GLBは二拠点生活によって、普段から脳細胞を活性化して生きていく現代の縄文人＝“遊牧民”にとって、絶好の住まいなのです。



鉄骨の間に見え隠れしている連山こそは、ハケ岳連峰。連峰を横一列で壮観に一望できるのも、ご当地茅野ならではのこと。つまり縄文人たちが親しんできた風景だということです。諏訪や茅野は“日本のへそ”といわれる場所。日本列島を横に走る中央構造線と日本列島を盾に切り裂く中央部の地溝帯フォッサマグナの西の端、糸魚川―静岡断裂線の交点。まさにニッポン列島のへそで愛を叫ぶ心臓です。

詳しくは
こちらから

